



能代南中学校
教諭 相模 津

これが私の 指導法 ～知的財産の継承～

「山場」の意味は、
若い時分「一つ
の単元の中に必ず
『山場』をつくり
なさい」という指
導を先輩教師から
いただきました。
「山場」の意味は、

山場のある授業
づくりを心がけて

我が校の実践



二ツ井小学校
教諭 藤田 元之

『学級力を鍛え授業のユニバーサルデザイン化を目指して』

本校では研究主題を達成するために、学級力と授業のユニバーサルデザイン化を研究の柱として、全校で取り組んでいます。

(1)学級力を鍛える
年に四回、子どもたちに、自分たちの学級がどのような状況であるかアンケートを取ります。結果をもとに、学級がよりよくなるために、学級力を上げるために、どのような取組を行うのか具体的に話し合い、変容を確かめます。授

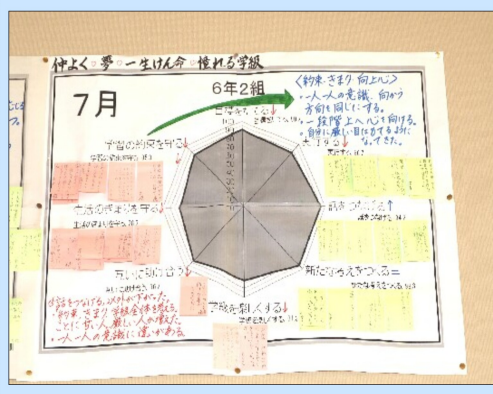
生徒が授業の内容に強く引きつけられて印象深く、クラス全体が盛り上がる授業のことです。もちろん、毎日毎回の授業が山場であることが望ましいでしょう。しかし、私のような凡人の数学教師にはそうすることが難しく、また、数学という教科の特性上、生徒にとつては平板で地味に感じられる演習の時間等もあるため、毎回の授業が山場というようにはなかなかいきません。そして先輩教師は、私の凡人性を見抜いた上で、あまり多くを望まず、一単元一山場とい

業がより深い学びになるために学級力は大切な要素と考えています。
(2)授業のユニバーサルデザイン化(三化)
①焦点化
授業の中で子どもに身に付けさせた力やねらいを教師側が明確に絞り、何を学ぶのか分かりやすく提示していくことや、話し合いの際に、コーディネーター役としてねらいから外れないように話し合いをリードすることを心がけています。

②視覚化
授業の流れが分かるような構造的な板書を心がけたり、自力解決の手がかりとなるような既習内容の提示をしたりするなど、目でみて分かるような実践をしています。
③共有化
自力解決や一人学びでの自分の考えをペアやグループで話し合う

う指導をしてくださったのだと思います。例えば、三年生には「三平方の定理」を学ぶ単元がありま

機会を取り入れていません。ただ話し合うのではなく、何のために話し合うのか、話し合ったことをどう活用するのかというねらいを明らかにして取り組んでいます。
昨年度まで国語を重点教科に取り組み、そこで培ったノウハウを今年度は、他の教科にも広げようと実践しています。



印象深かったのか、この春卒業した三年生は、私の授業の思い出としてこの授業を挙げてくれました。以前は、山場をつくることだけに腐心しましたが、最近では、その年度の研究の柱を念頭に、単元の山場を位置付けるようにしています。今年度の本校の研究の柱は「振り返り」です。この三平方の定理の単元では、どのように印象深い「単元の振り返り」をつくらうか構想を練っているところで、今から授業を楽しみにしています。



編集後記

新米が楽しみな季節となり、小学校では文化祭が終わり、迎えます。
ある中学校の校長先生から「子どもは発表を通して何倍も成長する。」と教えていただいたことがあります。
この秋も「小学生ふるさと学習交流会」を経て成長する子どもたちの姿が楽しみです。(湊)